

戊辰史跡めぐり

1 会津藩戦死墓、会津藩銷魂碑 (松並)

東
戊辰戦争白河口の戦いの中で最大の激戦地であった稲荷山の碑には、会津藩若年寄・横山主税、海老名衛門ら304名の戦死藩士の名が刻まれている。



2 会津藩田邊軍次君之墓 (松並)

東
※裏面〜ちょっと足を伸ばして白河戊辰物語〜参照



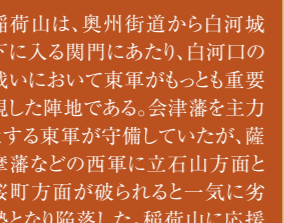
3 長州大垣戦死六人之墓 (松並)

西
慶応4年閏4月25日の白河口の戦いで戦死した長州、大垣藩将兵6名が祀られている墓。明治9年6月に明治天皇が、同41年9月には東宮嘉仁親王が立寄り御焼香されている。



4 激戦地・稲荷山(稲荷山公園)

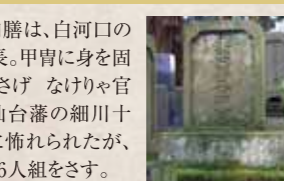
稲荷山は、奥州街道から白河城下に入る関門にあたり、白河口の戦いにおいて東軍がもっとも重要視した陣地である。会津藩を主力とする東軍が守備していたが、薩摩藩などの西軍に立石山方面と桜町方面が破られると一気に劣勢となり陥落した。稲荷山に応援に向かった白河口の副総督・横山主税は稲荷山の裏で戦死している。現在、稲荷山頂上付近は公園となり、西郷頼母の碑、麓には会津藩戦死者の慰霊碑、その向いには長州藩と大垣藩の戦死者の墓がある。



4 無縁塚 (白井掛)

5 棚倉藩阿部内膳之墓、会津藩戊辰戦死十二士之墓、南無阿弥陀仏 (向新蔵・常宣寺)

棚倉藩家老・阿部正徳(秋風)の子、阿部内膳は、白河口の戦いで桜町を守った16人組(誠心隊)隊長。甲冑に身を固め、槍や弓矢で戦ったが、「仙台島に十六ささげ なげりゃ官軍高枕」とうたわれ、ケリラ戦を得意とした仙台藩の細川十太夫率いる衝撃隊(カラス隊)と共に西軍に捕えられたが、被弾して戦死。※十六ささげは豆の一種で16人組をさす。



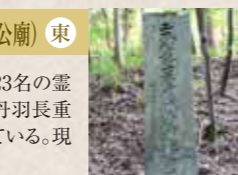
6 会津藩海老名衛門君碑銘、戦死塚 (向新蔵・龍興寺)

5月1日の龍興寺周辺での戦死者を祀った戦死塚と、この戦いで自刃した会津藩軍事奉行・海老名衛門季久の慰霊碑がある。海老名衛門は、敗戦の責任をとる死に場所として若松の菩提寺・浄心寺に似ていた龍興寺本堂前で切腹したと伝えられている。



7 二本松藩土慶応戊辰戦死之霊 (円明寺・丹羽公胤)

白河藩大名家墓所(丹羽長重廟)にあり、二本松藩士23名の霊を祀るため、旧二本松藩と白河町の有志で組織された丹羽長重公追遠会が建立した。碑文には戦死者の名が刻まれている。現在は、菩提寺・長寿院が供養を行っている。



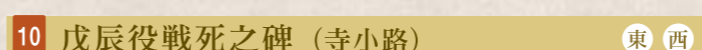
8 棚倉藩鎮英碑(南湖・鏡山)

戊辰戦争による棚倉藩戦死者の霊を祀るため、明治17年に旧棚倉藩の重臣・平田文左衛門が敬義会を組織して建立した。大正3年には旧藩士と白河の有志が白河鎮英魂保存会をつくり、現在に至るまで秋の彼岸に慰霊祭を行っている。



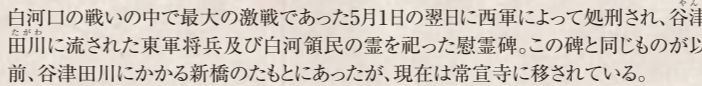
9 戊辰戦死之碑 (八竜神)

白河口の戦いの中で最大の激戦地であった5月1日の翌日に西軍によって処刑され、谷津田川に流された東軍将兵及び白河鎮民の霊を祀った慰霊碑。この碑と同じものが以前、谷津田川にかかる新橋のたもとにあったが、現在は常宣寺に移されている。



10 戊辰役戦死之碑 (寺小路)

白河口の戦いの中で最大の激戦地であった5月1日の翌日に西軍によって処刑され、谷津田川に流された東軍将兵及び白河鎮民の霊を祀った慰霊碑。この碑と同じものが以前、谷津田川にかかる新橋のたもとにあったが、現在は常宣寺に移されている。



11 南無阿弥陀仏 (馬町)

白河口の戦いに参加した新選組薩摩一隊長率いる隊士が宿営した場所。また明治14年の明治天皇東北巡幸の際、往路は休憩所、帰路は宿泊された場所でもある。今もなお当時の蔵座敷が現存しており、内部は違い棚、書院などを備えた床の間と座敷があり、玉座と呼ばれている。また、中庭には軍人東郷平八郎直筆による「明治天皇行在所」碑と菊の御紋入りの灯笼がある。



12 菊地央の墓、戦死人供養(大工町・皇徳寺)

元津藩藩士の菊地央は慶応3年6月以降新選組に入隊。翌年閏4月25日白河口の戦いでは、新選組近藤局長の仇で武川直枝(清原清)を討つ命を受けたと言われ、22歳の若さで戦死している。「戦死人供養の碑」と並んで建っている墓標には、側面に菊地央五郎、前面に誠忠院義勇英嗣居士と刻まれている。



13 棚倉藩小池理八供養、仙台藩石川大之進之墓 (愛宕町・関川寺)

14 芸藩士加藤善三郎墓 (巡り矢・万持寺)

芸藩(広島藩)加藤善三郎は戦争の帰途、奥州街道矢吹宿の茶屋で休んでいた養生村(現玉川村)農民・真弓作左衛門に荷物を白河まで運ぶよう命じたが、断られたことに腹を立て斬殺した。これにより加藤は逮捕され、薩摩藩、広島藩による取り調べの結果、軍律を正すため切腹を命じられ、万持寺の本堂内で切腹したという。戦いで手柄を立て十分に取り立てられる目前の悲劇と伝えられている。

15 戦死供養塔 (本町・永蔵寺)

16 慶応戊辰殉国者墳墓、白河役陣亡諸士碑(本町・長寿院)

戊辰戦争白河口の戦いにおける西軍各藩の戦死者が眠っている曹洞宗長寿院。墓は全部で116基(薩摩藩29基、長州藩30基、土佐藩18基、大垣藩13基、館林藩7基、佐土原藩19基)あったが、大正期に薩摩藩の墓所は小峰城東側の鎮護神山に改葬されている。現在は87基の墓があり、墓石には藩名や故人の名が刻まれている。



17 戊辰薩摩藩戦死者墓 (郭内・鎮護神山)

小峰城本丸の東にある鎮護神山には、三春・磐城平胡麻沢(13名)、花見坂(7名)、長寿院(18名)に埋葬されていた薩摩藩の戦死者を合葬した墓がある。白河口の戦いの激戦地となった稲荷山の戦いで、新選組を含む東軍藩兵に討ち取られた武川直枝(元新選組隊長・清原清)の名も刻まれている。



18 福島藩十四人碑 (向寺・聯芳寺)

戊辰戦争で亡くなった福島藩14名の名が刻まれた慰霊碑で、明治21年に建立。

19 遊女志げ之墓 (女石)

越後三条生まれの志げは白河の妓楼坂田屋に売られ、性格が温和で皆にかわいがられた。長州藩士で奥羽鎮撫総督下参謀・世良修蔵は、小峰城に入城した慶応4年閏4月9日、会津藩攻撃の命を受けているとき、坂田屋の遊女志げをひいきにした。世良は志げの機転によりこの地が危険であると察し、4月18日白河を脱した(4月20日に福島で斬首)。後の明治2年、戊辰戦争敗北を悲恨みした会津藩士が志げを殺害。その会津藩士は坂田屋の用心棒に殺害され、その仇を討たれたと伝えられている。

20 仙台藩士戊辰戦没之碑、戦死供養塔(女石)

女石は、会津街道(国道294号)と仙台街道(国道4号)の分岐点で、東軍の小峰城奪還戦の最前線基地として激戦が展開された場所である。白河口の戦いで戦死した坂本大炊ら仙台藩士150余名の慰霊碑と、明治2年地元の有志らにより建立された戦死供養塔がある。ここには5月1日から7月17日までに市内田町、向寺、榎田、大谷地、金勝寺、飯沢、長坂等における戦死者が埋葬されている。

白河見聞館「戊辰白河口戦い展」

白河口の戦いをもっと知ろう!
戊辰白河口の戦いにもつわる逸品や新選組関係のものが展示されている。会津藩や白河口の戦いに関連した人物、白河口の戦いの経緯などをくわしく学ぶことができる。

白河市中町65(奥蔵内) ☎0248-29-8630
■開館時間/9:00〜17:00(年中無休) ■入場料/大人200円、小中高生100円

※文中では、奥羽越前藩同盟軍を東軍、新政府軍を西軍と表記しています。